

兵庫岡山両県地方方言の研究

——断定の助動詞「ヤ・ジャ(ダ)」の分布について——

今 石 元 久

目次

はじめ

一 両県地方の断定の助動詞「ヤ・ジャ・ダ」

Ⅰ 助動詞「ヤ・ジャ・ダ」の、各地での存立状況

Ⅱ 助動詞「ヤ・ジャ・ダ」各事象の整理

Ⅲ 助動詞「ヤ・ジャ・ダ」の類縁事象

二 助動詞「ヤ・ジャ(ダ)」の分布状況

Ⅰ 「ヤ」の分布

Ⅱ 「ジャ(ダ)」の分布

三 「ヤ」と「ジャ(ダ)」との分布連関

おわり

○ はじめ

(一)本稿は、兵庫岡山両県地方にみとめられる諸方言事象のうち、

主として、断定の助動詞「ヤ・ジャ(ダも)」の分布状況を見、諸方言状態を、より具体的に、把握しようとするものである。

兵庫岡山両県下での諸方言を総称して、兵庫岡山両県地方方言とする。

(二)本資料は、次の実地調査によっている。

質問調査

○調査区域、兵庫岡山両県下およびその周辺(両県島嶼は未調査)。

○予備調査・調査項目選定・調査語句(——質問文、絵図も)設定・調査語句排列・その他。

○実地調査地点、一

一八地点(三〇戸以上の聚落、立地条件など、留意)。

○調査対象者、一一八名(選定規準、土地出身・明治二九―同四〇年の生

年・女子一名・外住経験なしもしくは外住経験五年以内・身心健全

など)。

○調査語句、二〇〇語句(方言音声・アクセント関係、表現法関係、語詞関係からなる)。(現地では、この排列により、

順次、発問)。

○調査所要時間(一地点で約三・五時間)。

○調査期間、昭和三九年七月三十一日―同四三年七月十五日(第一回、参照V)。

自然傍受の調査(自然傍受の調査も(録音器利用の調査も)行なう。

注1 断定の助動詞「ヤ・ジャ・ダ」関係の調査語句——①「火事だ」。

②「火事があったんだって」。

③「それはそうだ」。

④「火事だつた」。

⑤「そらだつたねえ」。

⑥「この子は、きつと、かしこい子になるだろう」。

⑦「きつと、着ないだろう」。

⑧「①では、「告知の文末詞」が調査の主要点。しかし、ごくしぜん「だ」をも期待する。

注2 ①「火事だ」では、絵図を用いて、イ、火事らしいものを発見した時、人々に、どう言って知らせますか。ロ「火事だ。」と言うときに、どう言いますか。(——「ヤ」「ジャ」「ダ」などの使用頻度・待遇品位・その他、留意) ②「火事だつた。」と言う時に、ここでは、どう言っていますか。

右のように発問法を統一する。

(三)参考資料(参考論文)

1 『日本方言地図』(東条操先生古稀記念会・吉川弘文館・昭和三年) 『19指定ノ云ヒ方「だ」「じゃ」「や」等ノ分布圖』

—第一部 口語法分布圖 (1906年 国語調査委員会)

2 『A Dialect — Geographical Study of the Japanese Dialects (Folklore Studies, vol. xv)』(藤原与一先生・タトル商会・昭和三年) 『Fig. 24 (It) is (a flower) . Fig. 25 Perhaps it is (a Flower) .』

3 『方言学』(藤原与一先生・三省堂・昭和三七年) 『第一助動詞「ダ」「ジャ」「ヤ」分布圖』——第四章通時方言学

(四)例説一 日本語諸方言上の「ダ・ジャ・ヤ」

4 『中国地方五県言語地図』(広戸惺氏・風間書房・昭和四一

年)、その他

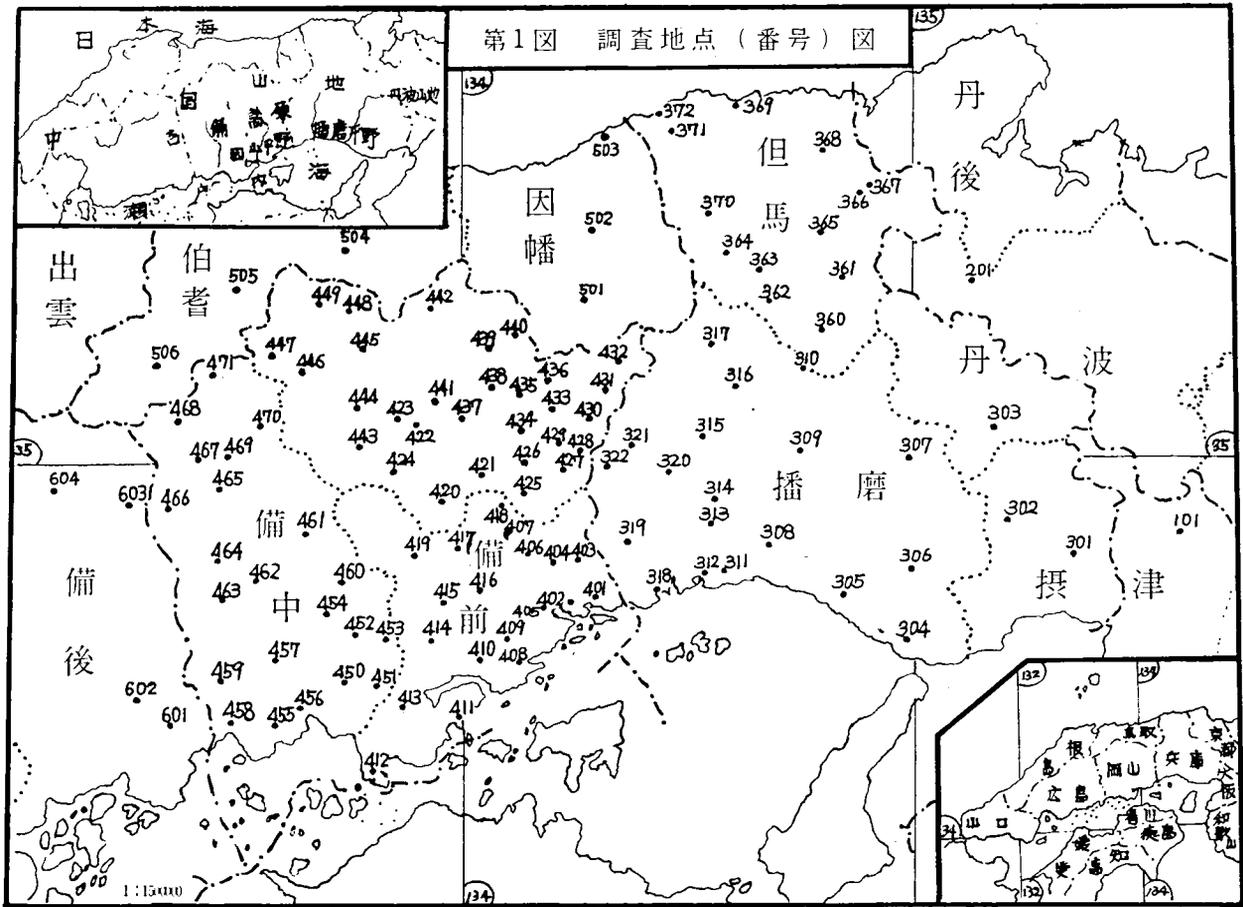
最近、瀬戸内海島嶼の方言調査——ことに、内海島嶼方言地理学的研究のための調査が総合(体系的)になされ、『方言研究年報』(第八卷・広島大学方言研究会・昭和四一年)などによって、内海島嶼方言の状態が明らかにされて来ている。このような研究に応じて、九州・中国・四国・近畿などの陸地の諸方言状態が具体的に把握されることは、意義深いと思われる。

四兵庫岡山両県地方の地誌

兵庫県が近畿に、岡山県が中国に、それぞれの地域に所属する。岡山県は、備前・備中・美作の三地域に、兵庫県は、摂津(摂津西半)・丹波(丹波西南)・播磨・但馬・淡路の五地域に区画される。

岡山県の地形は、北方の中国山地(予備内外)を背にして、南方の内海に面する恰好である。準平原——吉備高原(五百—六百メートル)が東西に隆起し、これによって、岡山県下が大きく南北に分かれる。県北東部に津山盆地など。県北西部に新見盆地など。南部に岡山平野など。中国山地分水嶺から瀬戸内海へ、高梁・旭吉井の三大河川。古来、河川交通が上記の河川によく発達していたといわれる。

中国山地の脈筋が兵庫県下にも見えている。兵庫県の地形は、中国山地分水嶺を境にして、南北に大きく分かれる。北方へ日本海斜面、南方へ瀬戸内海斜面。南部には、播磨(姫路)平野・篠山盆地など、千種川・掛保川・市川・加古川・武庫川の各川。北部には、豊岡盆地など、円山川。



(基本図『国土地理院』)

調査地点名

府・県	市	郡	町	村	字	地点番号	府・県	市	郡	町	村	字	地点番号	府・県	市	郡	町	村	字	地点番号
大阪府	摂津	高槻	一	真上	101	岡山府	備前	和氣	石	三吉	渡	瀬	403	岡山府	美作	久米	上落	上落	本村	442
京都府	丹波	福知山	一	川中	201	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	岩	崎	404	岡山府	美作	久米	上落	上落	見原	443
兵庫県	丹波	宝塚	一	山田	301	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	浦	部	405	岡山府	美作	久米	上落	上落	根	444
丹波	丹波	三田	一	山田	302	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	性	司	406	岡山府	美作	久米	上落	上落	政	445
播磨	播磨	多摩	一	山田	303	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	井	原	407	岡山府	美作	久米	上落	上落	甘	446
丹波	丹波	加古	一	山田	304	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	浦	師	408	岡山府	美作	久米	上落	上落	瀬	447
丹波	丹波	三田	一	山田	305	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	土	師	409	岡山府	美作	久米	上落	上落	木	448
丹波	丹波	加古	一	山田	306	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	浜	沼	410	岡山府	美作	久米	上落	上落	田	449
丹波	丹波	加古	一	山田	307	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	沼	井	411	岡山府	美作	久米	上落	上落	福	450
丹波	丹波	加古	一	山田	308	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	下	津	412	岡山府	美作	久米	上落	上落	田	451
丹波	丹波	加古	一	山田	309	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	井	津	413	岡山府	美作	久米	上落	上落	路	452
丹波	丹波	加古	一	山田	310	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	津	井	414	岡山府	美作	久米	上落	上落	瓜	453
丹波	丹波	加古	一	山田	311	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	立	川	415	岡山府	美作	久米	上落	上落	羽	454
丹波	丹波	加古	一	山田	312	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	陽	坂	416	岡山府	美作	久米	上落	上落	区	455
丹波	丹波	加古	一	山田	313	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	津	井	417	岡山府	美作	久米	上落	上落	須	456
丹波	丹波	加古	一	山田	314	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	旭	田	418	岡山府	美作	久米	上落	上落	下	457
丹波	丹波	加古	一	山田	315	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	福	高	419	岡山府	美作	久米	上落	上落	小	458
丹波	丹波	加古	一	山田	316	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	周	下	420	岡山府	美作	久米	上落	上落	江	459
丹波	丹波	加古	一	山田	317	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	中	北	421	岡山府	美作	久米	上落	上落	木	460
丹波	丹波	加古	一	山田	318	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	宮	北	422	岡山府	美作	久米	上落	上落	竹	461
丹波	丹波	加古	一	山田	319	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	西	北	423	岡山府	美作	久米	上落	上落	羽	462
丹波	丹波	加古	一	山田	320	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	福	明	424	岡山府	美作	久米	上落	上落	頭	463
丹波	丹波	加古	一	山田	321	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	白	土	425	岡山府	美作	久米	上落	上落	本	464
丹波	丹波	加古	一	山田	322	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	五	古	426	岡山府	美作	久米	上落	上落	野	465
丹波	丹波	加古	一	山田	323	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	影	大	427	岡山府	美作	久米	上落	上落	部	466
丹波	丹波	加古	一	山田	324	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	石	北	428	岡山府	美作	久米	上落	上落	市	467
丹波	丹波	加古	一	山田	325	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	川	北	429	岡山府	美作	久米	上落	上落	忠	468
丹波	丹波	加古	一	山田	326	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	五	古	430	岡山府	美作	久米	上落	上落	尾	469
丹波	丹波	加古	一	山田	327	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	大	久	431	岡山府	美作	久米	上落	上落	田	470
丹波	丹波	加古	一	山田	328	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	石	北	432	岡山府	美作	久米	上落	上落	見	471
丹波	丹波	加古	一	山田	329	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	町	石	433	岡山府	美作	久米	上落	上落	田	501
丹波	丹波	加古	一	山田	330	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	大	久	434	岡山府	美作	久米	上落	上落	谷	502
丹波	丹波	加古	一	山田	331	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	久	行	435	岡山府	美作	久米	上落	上落	土	503
丹波	丹波	加古	一	山田	332	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	東	一	436	岡山府	美作	久米	上落	上落	原	504
丹波	丹波	加古	一	山田	333	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	鏡	中	437	岡山府	美作	久米	上落	上落	市	505
丹波	丹波	加古	一	山田	334	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	下	森	438	岡山府	美作	久米	上落	上落	見	506
丹波	丹波	加古	一	山田	335	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	原	下	439	岡山府	美作	久米	上落	上落	山	601
丹波	丹波	加古	一	山田	336	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	下	森	440	岡山府	美作	久米	上落	上落	内	602
丹波	丹波	加古	一	山田	337	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	下	森	441	岡山府	美作	久米	上落	上落	田	603
丹波	丹波	加古	一	山田	338	岡山府	備前	赤磐	赤	吉	下	森	442	岡山府	美作	久米	上落	上落	明	604

主要交通路、瀬戸内海路・山陽道（内海沿いの、摂津（播磨）備前（備中）・山陰道（丹波）但馬）。その他、若狭（播磨）因幡・因幡（播磨）美作（因幡）・出雲（播磨）美作（伯耆）・津山（備前）美作）・新見（備中南）備中北）などの交通路。古来、陸上交通よりも海上交通のほうがはるかによく発達していたといわれる。

一 両県地方の断定の助動詞「ヤ・ジャ・ダ」

断定の助動詞「ヤ・ジャ・ダ」は、『兵庫岡山両県地方方言地理学的研究』の実践項目体系のうち、主要な地位にある。

一 助動詞「ヤ・ジャ・ダ」の、各地での存立状況

(1) 兵庫県但馬出石町百合地点（地点番号三六七）

百合地点は、兵庫県但馬豊岡市（豊岡盆地内）から、およそ、南東方面のところ。丹後山地内にある、約三〇戸の聚落。生業は、農業が主。副業、養蚕など。出石町中心街へ約二キロメートル。

○キンサル コロジャ。（やがて）来られることだ。（老年者女子）
○カジジャー。火事だ。（老年者男子）
○ソージャツタ。そうだった。（老年者女子）

○オモットラレルジャロート オモイマス。思っておられるだろうと思います。（老年者男子）
○コレダ。これだ。（中年者男子）

○カジダツタ。火事だった。（老年者男子）
○イヤイヤ、ソージャラー。ソニー チガエーナニー。いやいや、そうだろう。そうにちがいない。（老年者男子）

○カジヤ。火事だ。（青小年者女子）ハカジヤツタ。カジヤロー。

とも。（青小年者女子）V

各助動詞の存立状況は、およそ、第1表のようになる。

「ジャ」「ヤ」の先後（新古）関係は、「ジャ」→「ヤ」か。「ジャ」は、主として、老年者女子に保守され、「ヤ」は、主として、中・青小年者女子に受け入れられている。

「ダ」と「ジャ（ヤ）」との先後（新古）関係は見定めがたい。この存立差は、結局、男女差によるのであろうか。（精査が必要。）

この地点から近い奥丹後地方の「デア・ダ・チャなど」が参照される。室山敏昭氏は、「京都府奥丹後袖志方言の断定の助動詞について」その存立状況を観察し、左の転訛過程を帰納された。

$$/ \sim \text{dearu} / \sim / \sim \text{deal} \rightarrow \begin{cases} \sim \text{dia} \\ \sim \text{dja} \end{cases} \rightarrow \sim \text{da}$$

（日本方言研究会 第二回研究発表会要旨 一九六五年）

(2) 兵庫県播磨姫路市北平野地点（地点番号三〇八）

右の地点は、播磨広峰山の麓に位置している。古い聚落、約三六〇戸（地つき、八〇戸）。以前、農業が主。現在、会社、商店等、通勤。旧兵庫県飾磨郡城北村平野。大正年間に姫路市と合併。戦災なし。

ここでは、「ヤ」助動詞が、盛。全年層に行なわれている。「アキマヘン ネン。まるきり、だめなのよ。（老年者男子）」のように、「ヤ」助動詞系の文末詞も聞かれる。

○アンタトコノザシキニ ネットカラハイラシテモロタコト、トナリジャケド。ヨージガ ナイサカイ。カドマデワヨークルケド。あなたの所の座敷に、まったく、はいらせてもらったこと（がない）。隣だけれど。用事がないから。門

第 1 表

兵庫県但馬出石郡出石町百合(三六七)地点											
対象者	類事象										
	「ジャ」類	「ダ」類			「ヤ」類			対象者の、事象類に関する内省			
老女・A	●	●	●							待 遇 品 位 (よいものから)	新 古 (新しいものから)
老女・B	●	●								①ヤ②ジャ③ダ	①ヤ②ジャ・ダ
老男・A	○	○								①ダ②ジャ	①ダ②ジャ
中女・A										①ヤ②ジャ・ダ	①ヤ②ジャ・ダ
中男・A					●					①ダ②ヤ③ジャ	①ダ②ヤ③ジャ
青小女・A										①ヤ②ダ	①ヤ②ダ
青小女・B										①ヤ②ダ	①ヤ②ダ
青小女・C										①ヤ②ダ	①ヤ②ダ
青小男・A					●					①ダ②ヤ	①ダ②ヤ
青小男・B					●					①ヤ②ダ	①ヤ②ダ
青小男・B					●					①ヤ②ダ	①ヤ②ダ

注1 調査語句(「火事だ。」「火事だった。」「火事だろう。」「火事だろう。」「そうだ。」「そうだった。」「そうだろう。」「そうだろう。」「など」)

注2 類事象の存立状況(●印・盛、○印・稀)

注3 調査対象者(土地出身、外住経験なし)

第 2 表

兵庫岡山両県地方の断定の助動詞「ヤ・ジャ・ダ」(老年者女子)

調査語句	事 象 類		
	「ヤ」類	「ジャ」類	「ダ」類
① 火事だ。	カジャ。 カジャヤ。 カツジャヤ。	カジジャ。 カジジャヤ。	カジダ。 カジダヤ。
① 大火事があつたんだって。	…アツタンヤトイ。	…アツタンジャチー。	…アツタダトー。
① それはそうだ。	ソラ ソヤ。 ソラ ソヤヤ。	ソリヤヤソージヤ。 ソリヤヤソージヤヤ。	ソリヤヤソージダ。 ソリヤヤソージダヤ。 ソレワソソダ。
② 火事だつた。	カジャヤッタ。	カジジャヤッタ。	カジダヤッタ。
② そうだつたねえ。	ソヤッタ ナー。	ソージヤッタ ナー。	ソージダッタ ナー。
③ …かこい子になるだろう。	…ナルヤロ。 …ナルヤロヤロ。 …ナツリヤロ。	…ナルジャロヤロ。	…ナルダロヤロ。 …ナルダラヤロ。
③ …きつと着ないだらう。	…キンヤロ。 …キンヤロヤロ。	…キンジャロヤロ。	…キンダロヤロ。 …キンダラヤロ。

までは、よく来るけれど。(古老年者女子)
「…ジャケド」のように、古老年者では「ジャ」助動詞も聞かれる。

しかし、ごく稀。
○イヤ キョネノ ハルダヤン。いいえ、昨年（去年）の春ですよ。

きつと。(老年者女子)

これは、「ダハン・シダハー(しですよ)」と同類の事象であろう。「ココエ キテダシタラ ヨロシ。ここに来られ、またら……。(老年者女子)」の実例もみとめられる。

(3) 岡山県美作真庭郡落合町古見地点(地点番号四四三)

古見地点の方言について、かつて、「あいさつことば」の観点で記述をこころみた。(拙稿『方言研究年報』第六巻広島大学方言研究會)

「ジャ」助動詞が盛んである。言いきり形の「ジャ」のほか、「ジャッタ」、「ジャロー」が全年層に行なわれている。ただ、老年者男子などに、「ダッタ」、「ダロー」が認められなくはない。

Ⅱ 助動詞「ヤ・ジャ・ダ」各事象の整理

第2表を参照せられたい。

① 「(火事) ヤ」事象……兵庫県二〇地点・岡山県三地点

① 「(火事) ジャ」事象……兵庫県一八地点・岡山県六六地点

① 「(火事) ダ」事象……兵庫県七地点・岡山県六六地点

(岡山県七一地点・兵庫縣三五地点、両県下総地点数一〇六地点)

……「ジャ」[3a]/zja/—「ヤ」[ja]/ja/

……「ダ」[da]/da/

实地調査によって得られた助動詞「ヤ・ジャ・ダ」関係の各事象例は、以上のように整理される。

Ⅲ 助動詞「ヤ・ジャ・ダ」の類縁事象

助動詞「ヤ・ジャ・ダ」の類縁事象について、次のものがとりあげられる。

(1) 転成文末詞関係のもの

「ネン」、「ジャ(ー)」、「ダ(ー)」など

(第5回図表)

(2) 接続詞関係のもの

「ソヤサカイ(シャーサカイなど)」、

「セージャケー(シャーケー・シャーカーなど)」、

「ダケー」

(3) 「テ」敬語関係のもの

「テヤ」、「テジャ」、「テダ」など

(4) 「特殊文表現」関係のもの

「ラクヤ」、「ラッキヤ」(大丈夫だ。)、

「ラクダ」(大丈夫だ。)

二 助動詞「ヤ・ジャ(ダ)」の分布状況

分布図を見、両県地方の断定の助動詞「ヤ・ジャ(ダ)」の分布状況について、述べてみようと思う。

○ 第2図、調査語句「火事だ。」(老年者女子)

○ 第3図、調査語句「大火事があったんだって。」(右同)

○ 第4図、調査語句「この子は、きつとかしこい子になるだろう。」(右同)

I 「ヤ」の分布

第2図を見ると、言いきりの「ヤ」は、次の諸地方によく分布している。

兵庫縣揖津—宝塚・三田(三〇一・三〇二)、同県丹波—多紀

(三〇三)、同県播磨—明石・加古川・三木・西脇・姫路など

(三〇四—三〇八・三一一)

注1()内の漢数字は、調査地点を表記したもの。以下、これに準じる。

「ヤ」が、摂津・丹波から播磨平野などの播磨中部へ、大きな安定勢力をなしているといえよう。「ヤッタ」(火事だった)。「ヤロ(一)」「(この子は、きつと、よい子になるだろう。)」によって、この勢力が、はっきりと、みとめられる(第4図、参照)。

第3図では、播磨掛保郡・同安栗郡・但馬朝来郡などの各地でも、今日、「ヤ」がかなり強いことを示している。

これらの分布は、京阪の「ヤ」の分布領域につづいている。概して、「ヤ」助動詞の勢力は、近畿中央に直接している兵庫県

南部(近畿中央よりの瀬戸内海斜面)地方へ強いところからみて、この分布は、新興・新来の勢力と解することができる。

II 「ジャ(ダ)」の分布

両県下では、兵庫県南部地方の「ヤ」の分布に大きく対立する分布として、まず、岡山県地方の「ジャ」の分布が指摘される。しかし、両県の北方では、全く、「ジャ」の無分布になっているところもある。そこでは、強い「ダ」の分布が見られる。

以下、兵庫県南部地方の「ヤ」の分布に対立する、岡山県地方などの「ジャ(ダ)」の分布相について、観察してみたいと思う。

(1) 「ジャ」の分布

岡山県備前―和気(三石・日生兩地の一部は除く)・邑久・西大寺・玉野・児島・岡山・赤磐・御津(四〇二・四〇四)―四一九)・同県美作―久米・英田(作東の一部は除く)・勝田・津山・苫田・真庭(真庭北部地方は除く)(四二〇)―四二六・四二八)―四四七・四四六)・同県備前―倉敷・都窪・総社・吉備・浅口・小田・笠岡・井原・上房・高梁・川上・阿哲(神郷北部は除く)・新見(新見北辺は除く)(四五〇)―四六七・四

六九・四七〇)

第2図・第3図によると、「ジャ」の分布が、ことに、右の各地によくたどられる。備前の東部(東辺は除く)と西部に、美作の東部(東辺は除く)と西部(西北奥は除く)に、備中の南部と北部(北辺は除く)の各地にと、岡山県地方に「ジャ」がよく定着している。

兵庫縣播磨―実栗(波賀)・作用(作用・上月)(三一七・三二一・三二二)・同県但馬―養父(大屋)・出石(出石)(三六二・三六三・三六六・三六七)

兵庫縣側では、右の各地が注意される。「ジャ」が、播磨西部や但馬南部(中国山地部内など)の奥地に、相当、根強いとみられる。

両県の隣府県下では、京都府丹波福知山市に、山陰の鳥取県因幡南辺にも、「ジャ」の分布が見られる。が、主には、広島県方面へ強いといえよう。

概して、「ジャ」は、岡山県側に強く、その主領域は、兵庫県の奥地(播磨西奥・但馬南奥など)から岡山県の各地に及んでいる。この様相は、今日からみると、古い分布相をもがたっているかと思われる。兵庫縣側での様相は、「ジャ」の分布が新興・新来の「ヤ」の勢力を受けて、奥地におしこめられているかのようである。これは、右の言いきり形「ジャ」に限らず、「(火事)ジャッタ」・「(…かしこい子になる)ジャロ(一)」によっても指摘される。

次に、「ジャ」の周辺分布―ことに、兵庫県の播磨―各地では、「ジャ」と「ヤ」との、顕著な分布交錯になっている。

岡山県備前―和気郡日生町寒河(四〇二)・同郡三石町渡瀬(四

方言資料第四卷近畿編(日本放送協会)『二七三』

(2)「ダ」の分布

「ジャ」の分布領域から北方をうかがうと、日本海斜面・中国山地各地に、「ダ」の分布がみとめられる。そして、この分布は、鳥取県下以西の「ダ」の強い分布領域につづいている。

両県下内では、「ダ」が但馬北部美作西北奥・備中北辺の方面に強い。次の各地が注目される。

兵庫県但馬―養父(関宮の熊次―ここは、数年前、美方郡下であった)・豊岡・城崎・美方(三六四・三六八―三七二)、岡山県美作―真庭(新庄・八東・川上)(四四七―四四九)、同県備中―阿哲(神郷の和忠・新見(花見)(四六八・四七一)「ダ」・「ジャ」の分布接合地がも定められようか。次の二地点が指摘される。「ダ」助動詞、「ジャ」助動詞の存立状況に注意してみた。

兵庫県但馬養父郡八鹿町上小田(三六五) 岡山県美作真庭郡湯原町羽根(四四五)

ところで、第4図を見ると、「ジャロ(ー)」の分布領域内に「ダ」助動詞の「ダロ(ー)」の分布も、相当、みとめられる。兵庫側の播磨西―岡山県側の美作方面にも、「ダロ(ー)」がよく分布している。分布としてのまとまりをみせている。「ダ」助動詞が、「ダロ(ー)」形でならば、播磨西部・美作各地にもよく分布していることになる。この分布事実は、これとして注目に価すると思われる。

以上、両県下での「ダ」助動詞は、別して、但馬北部地方に強いことが知られる。ここでは、言いきり形「ダ」が盛んである。

「ダロ(ー)」形とともに言いきり形が盛んである。また、「ダロ(ー)」とともに「ダラ(ー)」が盛んでもある。(Caruは、Caruにもしていく音韻地盤が注意される。)

三 「ヤ」と「ジャ(ダ)」との分布連関

両県地方の断定の助動詞「ヤ・ジャ・ダ」が以上のように分布しあう様相を巨視するとき、おそらく、分布相互に何らかの史的関係があったであろうと思われる。

「ヤ」と「ジャ(ダ)」とは、ならんで、両県下に盛んであるが、双方の、近畿中央方面への分布の様子をみると、「ヤ」の勢力は、「ジャ」の分布をせばめたかと解される。

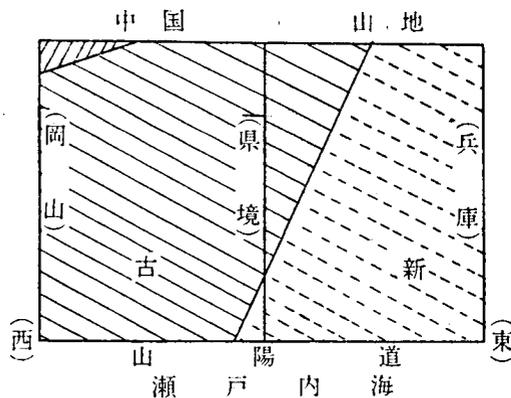
①「ジャ」は、兵庫側の奥地(―中国山地など)から岡山県各地によく定着している。「ヤ」は、近畿中央に直接する方面(―近畿中央に直接する瀬戸内海斜面)に強い。②岡山県東辺、但馬南辺、播磨南部、播磨中部などの、「ヤ」と「ジャ」との分布交錯の状況―「ジャ」の残存化傾向。③兵庫県但馬出石郡出石町百合地点方言など―「ジャ」√「ヤ」か。④「ヤ」助動詞の成立―[22]√[23]『方言学』二八二頁

おそらく、播磨中部・播磨東部・丹波・摂津にも、「ジャ」の一時期がかつてあったのであろう。それが新興勢力「ヤ」の接触・浸蝕を受け入れていくうち、現在の「ジャ」の様相になるにいたったかと思われる。

両県地方内海斜面の「ヤ」と「ジャ(ダ)」との分布連関は、単純化して、次の模式図のようにうけとることができよう。

一つ、県境付近を境にして、東側が新で、西側が古。――山陽道

東辺（山陽道の起点付近）から西下して、ほぼ、両県の県境付近まで新興「ヤ」の強い波及がみとめられ、ここを越えて、岡山県側では、古い「ジャ」が一円的に根強い。



二つ、山陽道東辺から北方へ北西方に新興「ヤ」の波及がみとめられる。この新波に対して、播磨西奥・但馬南奥では、古い「ジャ」が、相当、根強く残っている。

いたっていない。瀬戸内海斜面では、およそ、その県境付近を境にして、東西に新古の「ヤ」・「ジャ」が、はっきりと、対峙していることが知られる。兵庫県の奥地でも、「ヤ」新勢力に対して、「ジャ」がよく保守されているようである。（日本海斜面の但馬北部では、根強い「ダ」の分布領域になっている。）

『国の西半の「ジャ」の分布相を見わたすと、その中に、「ヤ」助動詞の分布しているのが見られる。近畿地方は、その主領域であり、そのつづきは、東北方に、中部地方内に見られ、また、西南方に、四国東半内に見られる。西では、はなれて、なお、九州内の分布が目される。』『方言学』二七一〜

藤原与一先生のこうした展望に導びかれ、今日、兵庫岡山両県下にもとめられる「ヤ」助動詞および「ジャ」（「ダ」も）助動詞の分布状況は、まさに、注目に価すると思われる。これは、結局、近畿方言と中国方言との方言対応と言われている、その根本的な事態を代弁していると思われる。

当該方言の分派状態を、大局的に把握しようとするとき、以上のような実践が多角的になされなければならないであろう。音声関係にも、語詞関係にも、たらいってみようと思う。

— 広島大学大学院学生 —

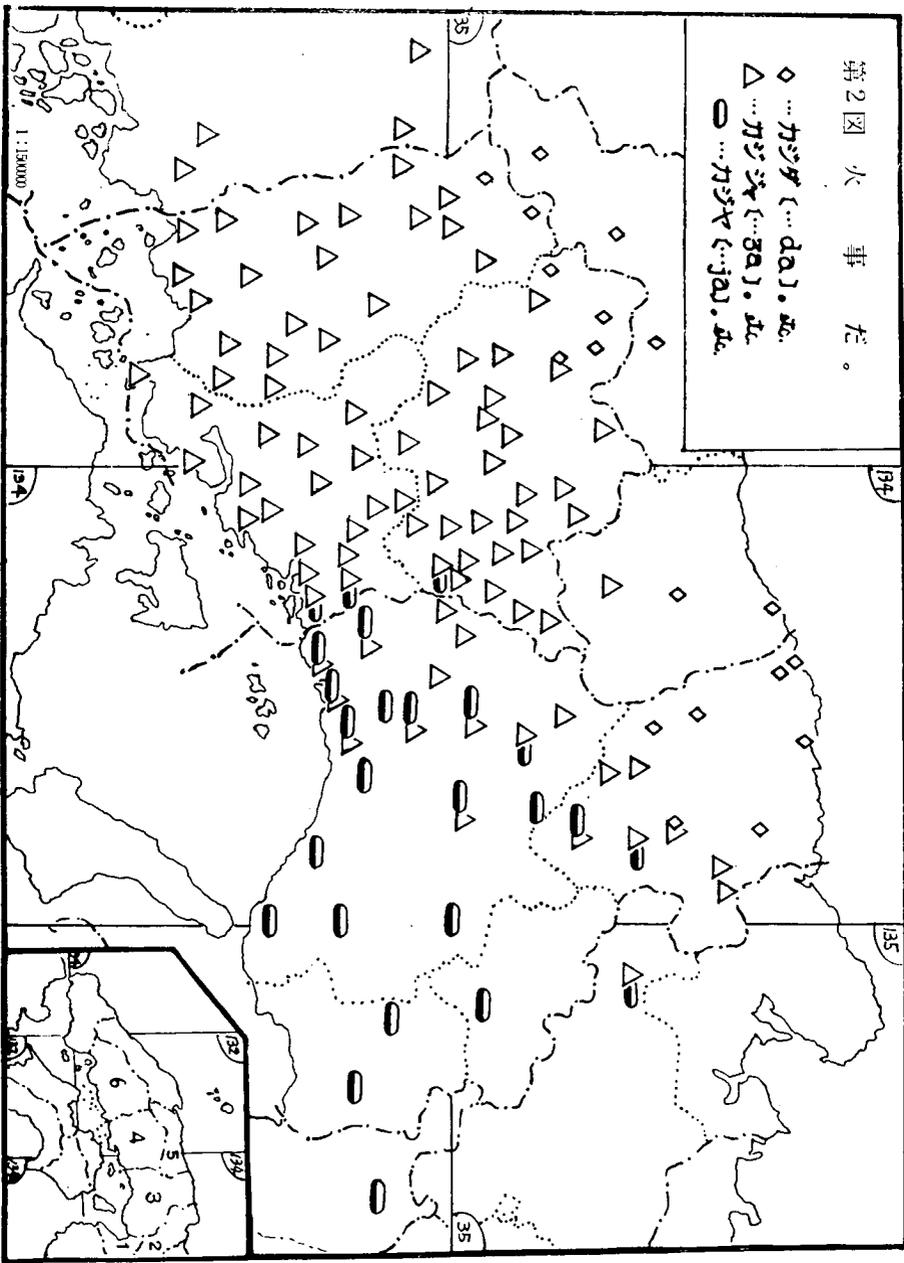
○ おわり

一体、兵庫岡山両県地方は、近畿中央の活発な勢力を、直接に、受け入れるところに位置していると思われる。ことに、両県地方内海斜面は、中央の活動に影響されてきたか。

断定の助動詞「ヤ・ジャ（ダ）」の分布状況によると、「ヤ」の西漸勢力は、近畿中央から兵庫県南部地方へ、「ジャ」の分布をよく改新してきたことが観察される。しかし、この勢力が、なぜか、県境を越えて、岡山県側の「ジャ」をも、広く大きく、改新するに

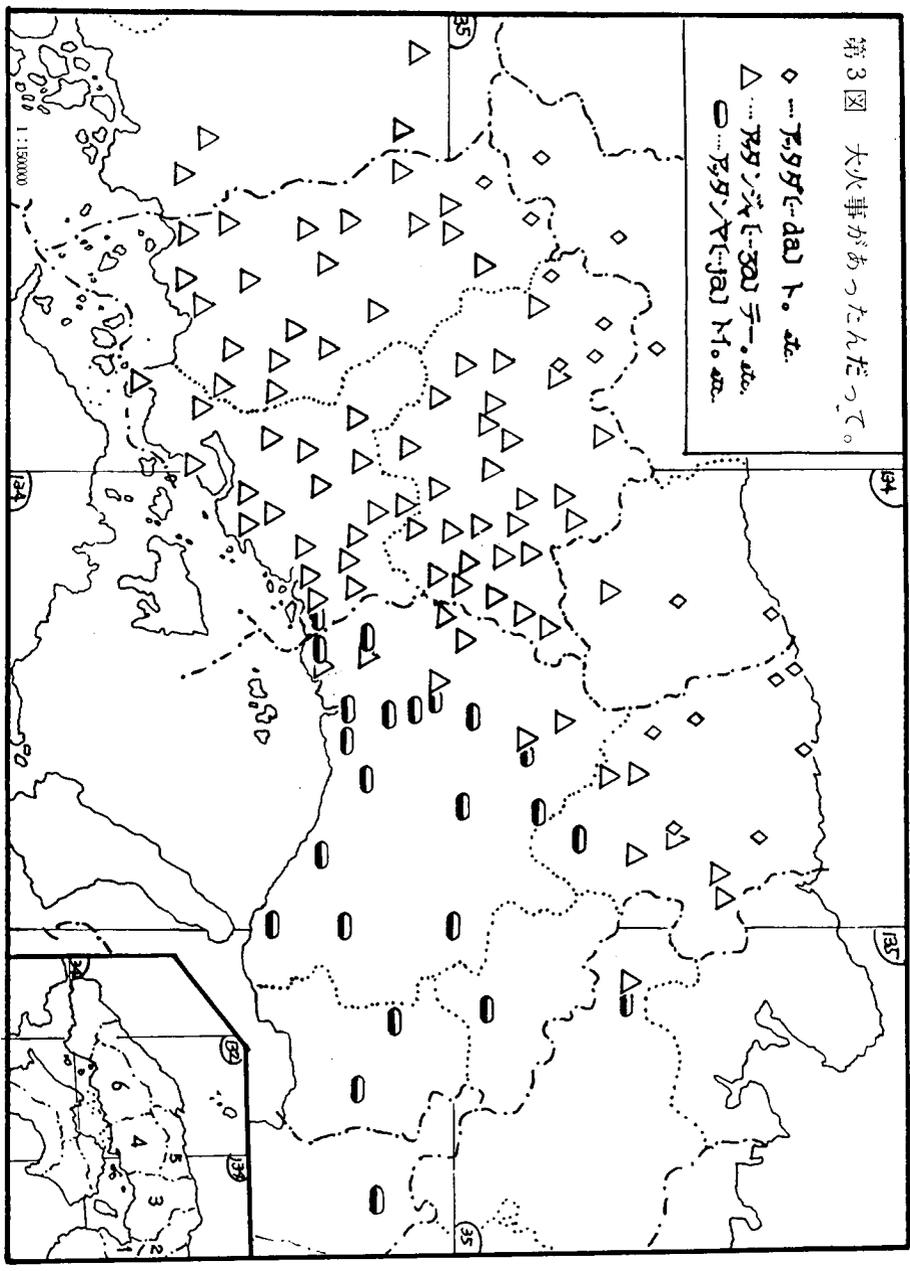
第2図 火事だ。

- ◇ ...カジダ (... da). 火.
- △ ...カジヤ (... ya). 火.
- ...カジヤ (... ya). 火.



第3図 大火事があったらんで。

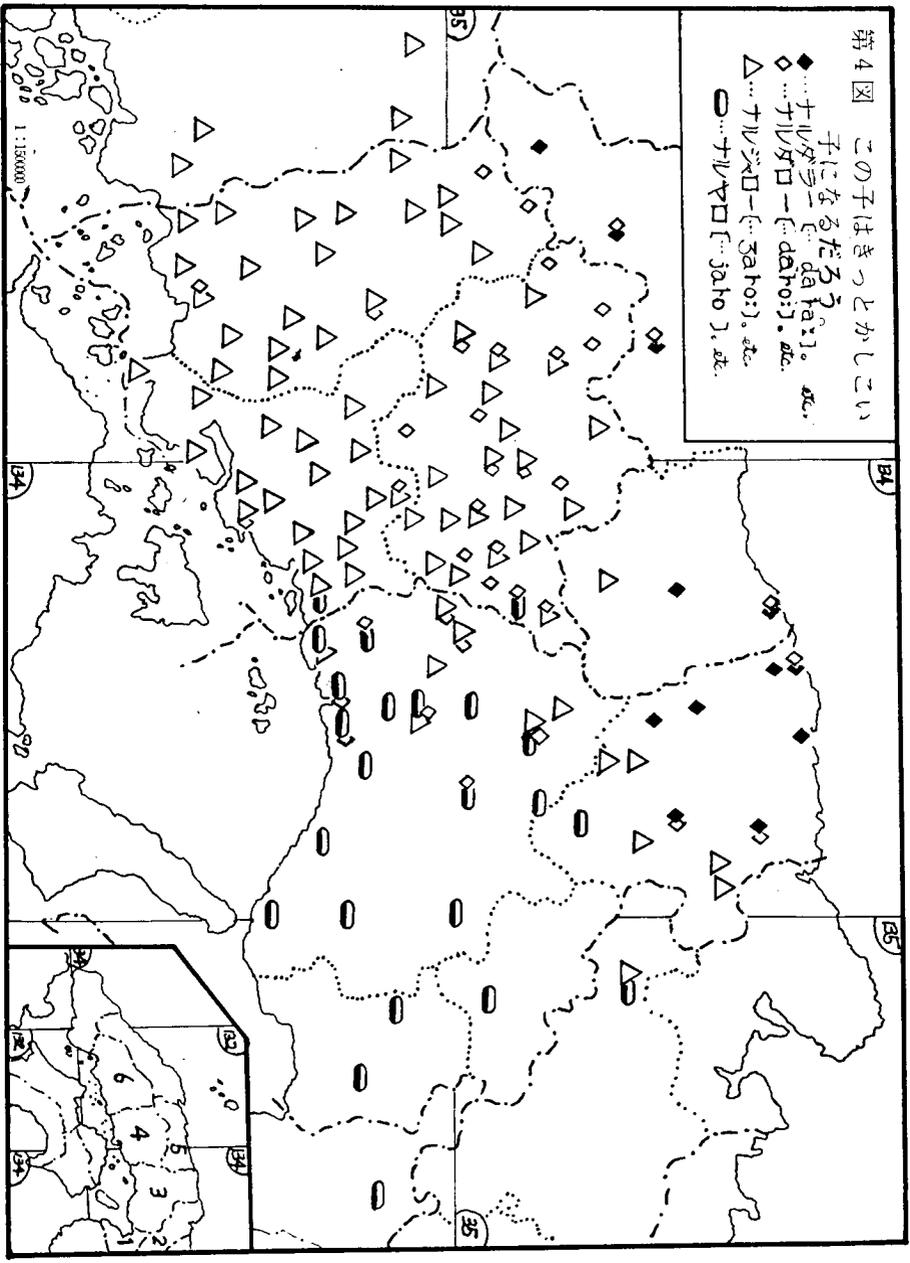
- ◇ ... マダガスカールト。etc.
- △ ... マダガスカールト。etc.
- ... マダガスカールト。etc.



第4図 この子はきつとかしい

子になるだろう。

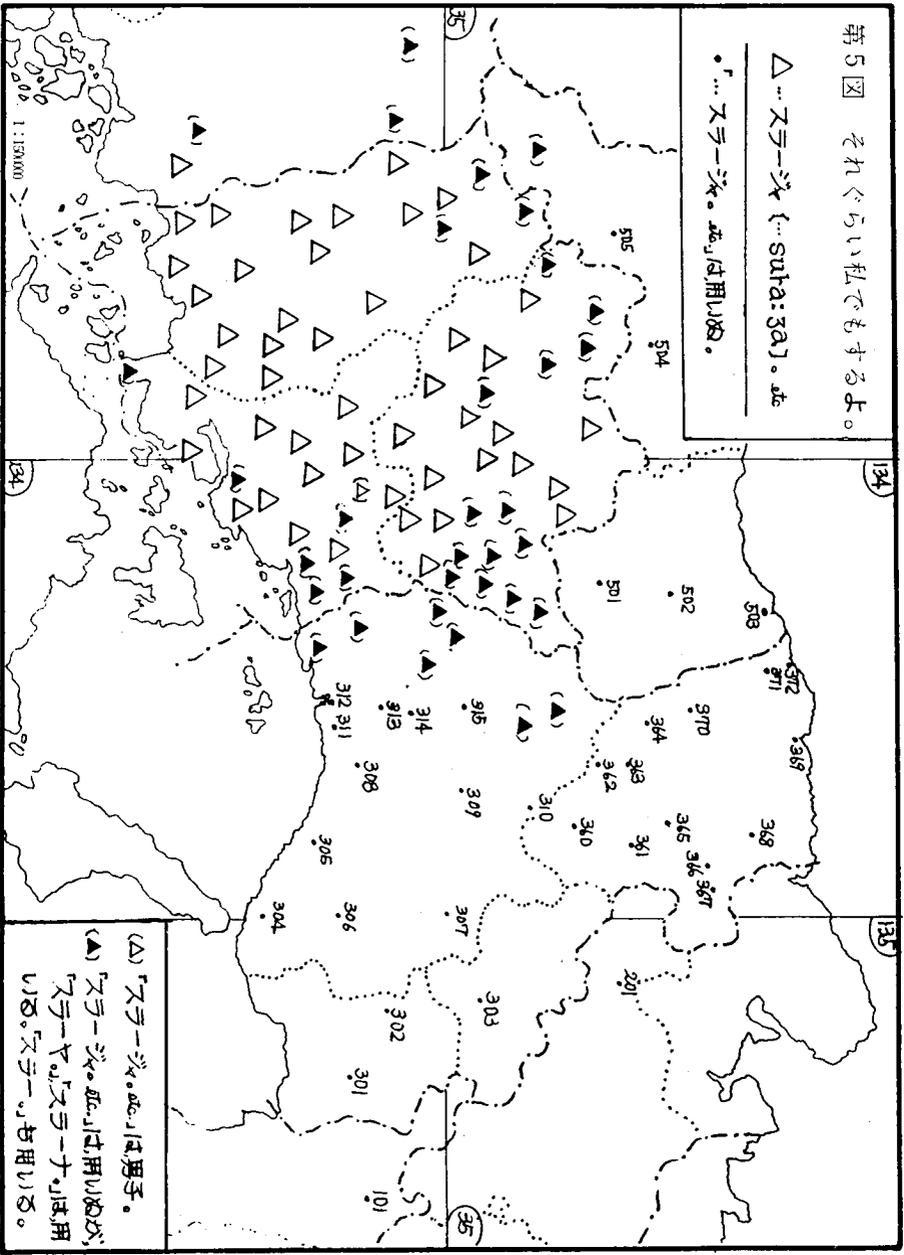
- ◆...ナルダラー〔*da'ra:*〕. etc.
- ◇...ナルダロー〔*da'ro:*〕. etc.
- △...ナルダロー〔*da'ro:*〕. etc.
- ...ナルヤロ〔*ja'ro:*〕. etc.



第5図 それぐらひ私でもするよ。

△ 「スラーヂ」 (sura: ja). 此

・「スラーヂ」は用いぬ。



(△) 「スラーヂ」は用いぬ。

(▲) 「スラーヂ」は用いぬが、
「スラーヂ」は用いぬ。
「スラーヂ」は用いぬ。